

ウクライナ支援金贈る

県立大と
学生支援団体
AMDAへ15万円

県立大(総社市窪木)民への医療活動を通じて、沖陽子学長やPZと同大の学生支援団体「PZL」は24日、ロシア・AMDAに支援金15万円を贈った。ウクライナからの避難

り、沖陽子学長やPZ L代表の情報工学部3年赤滝俊介さん(22)がAMDAの難波妙理事

に目録を手渡した。現地では医薬品や食料といった生活必需品が不足しているといい、難波理事は「戦争は人々の手で始まったものは人の手で止められると信じているので、今後も支援してほしい」と訴えた。

同大では4月25日から学生や教職員に呼び掛けてウクライナへの募金活動を実施。赤滝さんは「活動をきっかけにウクライナのニュースを意識して見るようになった。現地の人々の安全を守るために支援金を使ってほしい」と話していた。

(久万真毅)



難波理事(左)に目録を手渡す赤滝さん

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。